

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070600764
法人名	株式会社 エルダーサービス
事業所名	グループホーム 牧水の丘Ⅱ
所在地	福岡県北九州市八幡東区東鉄町5-1
自己評価作成日	平成25年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年3月31日	評価結果確定日	平成25年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、自然豊かで四季折々の景色が楽しめる静かな高台にあり、入居者の皆様は朝は心地良い鳥の鳴き声を聞きながら目覚められている。穏やかな空気の中で一日が始まり、お一人一人のペースを尊重しながら、人との係わり合いの温かさを常に感じてもらえる生活を大切にしている。いつも入居者と職員の笑い声が絶えず、信頼関係を保ちながらもいろんな刺激を受ける事で、認知症の進行を少しでも防げるような支援を志している。御家族や近隣の方々との交流を大切に、安心して生活して頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

牧水の丘Ⅱは、幹線道路から少し入った自然が多く残る高台に位置し、事業所名は歌人が滞在した縁の地であることに由来している。周囲は樹齢を重ねた樹木や草花に囲まれ、四季の変化を満喫することができる環境である。近隣には同法人のグループホームが位置し、日常的に連携が図れることや、地域との交流や協力関係を築くことに熱心に取り組んでいる。また、家族とのつながりを大切に捉え、毎月の便りを送付する際には個別の状況報告や管理者からの手紙を同封し、家族交流会やアンケート実施による、コミュニケーションの深まりや意見表出機会の確保等、関係作りに向けた取り組みを一つ一つ積み重ねている。地域密着型4事業所を有する法人内での研修制度も充実しており、職員間の人事交流や資格取得にも支援体制が整えられている。それぞれの方の「自分らしさ」を実現することを目指し、家庭的な団欒と安心できる生活環境作りへの取り組みが伝わってくる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は皆が目につく所に掲げ、毎日の朝礼で唱和し、再認識しながら日々の業務に取り組んでいる。	グループホームとしての理念や運営方針を、玄関と事務室に掲げている。毎朝唱和し、「気づきと思いやり」を実践している。意思の表出が困難な方の思いをどのように受け止めるかを常に考え、表情や仕草等の変化への気づきを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等での近隣の方々との挨拶を大切にしている。ちょっとした会話の中で、地域の方々の問題や不安や質問にも積極的に応じている。運営推進会議で、町内での問題等を共有している。	町内会に加入し、地域の行事や活動の情報を受けている。近隣の方が周辺の道路愛護活動を自発的に担ってくれており、時には山菜などの差し入れも頂き、温かいサポートを得ている。歌やギターの弾き語りなどのボランティアとして、地域の方の訪問が多くある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせや見学希望は積極的に応じている。介護の負担や悩み事を聞いたり、理解する事で少しでも軽減出来るように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族始め、町内会の方、地域包括支援センターの方との、意見交換、情報交換を大切にし、日々の業務に活かせるように努めている。	運営推進会議は、近隣の同一法人のグループホーム「牧水の丘」と合同で実施している。家族や町内会長、地域包括支援センター等の参加がある。家族は自由参加で、常に2組ほどの参加を得ている。運営状況を報告し、情報交換を密にし、地域や行政との連携を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からメールを通じていろんな情報をもったり、必要な時は電話にて問い合わせをしている。地域運営推進会議には毎回、地域包括支援センターの職員に出席して頂き、情報交換を行っている。八幡東区のグループホーム交流会には毎回出席し、情報交換に繋げている。	八幡東区全体のグループホーム交流会が、市役所や区の行政担当者も参加して、年に1回実施されている。毎回出席し、幅広い情報交換と相互交流に努めている。市や区の担当者とは、日常的に、介護保険の手続き上の問題や制度に関して、相談や連絡ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修やセミナーにて学び理解し、身体拘束のない介護に取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを徹底的に実践している。日中は施錠していない。人懐っこい小型の室内犬が、入居者を見守っており、自然に笑顔がこぼれ、精神的な安定にも繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やセミナーにて学び、事業所全体で虐待防止に努めている。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	セミナーや定例会にて学び理解し、必要な場面があれば活用できるようにしている。	現在、権利擁護に関する制度を活用している事例はないが、セミナーや定例会、内部の研修会を通じて、制度の理解を深め、知識を共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決定した際は、入居契約書や重要事項説明書にて、当ホームのサービス内容を詳しく説明し、質問、相談に応じ納得して頂いている。解約時も、疑問点等ないように対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が日頃から気軽に要望や不満が言えるような空気作りに努めている。御家族にも面会時や電話連絡時、家族会などにて意見、要望を頂けるように努めている。玄関に意見箱を設け、反映出来るようにしている。	毎月便りを発行し、担当者から近況報告と管理者からの手紙を送付している。年に1回、運営推進会議後に家族交流会を実施しており、4～5家族、10名ほどの参加を得ている。参加できない家族や発言しにくい状況にも配慮して、アンケートも実施し、家族の要望や意見を受け止め、運営への反映に繋げている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや定例会、個人面談にて多くの意見、疑問を聞き、反映出来るようにしている。日常の業務の中での意見も聞き逃さないようにして、他の職員に発信し、良いものはどんどん取り入れている。	毎日のミーティングや定例会議で意見交換し、日々の業務に反映させている。またミーティングシートを活用し、意見を共有している。給料支給日には個人面談を行い、個別の意見や要望を表出できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務の中で、職員個々の状況を把握し、必要な場合は柔軟な調整にてやる気を出し、向上心に繋がれるようにしている。働きやすい職場作りに努め、優秀な契約社員は正社員への登用、役職を持つことでさらなるステップアップが出来るような機会を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、性別、年齢、経験等での排除行為はない。管理者は職員が生き生きと働けるような職場作りを心掛け、それぞれの能力が十分に発揮できるように努めている。日々のコミュニケーションを大切にし、個人面談等にも精神面でのサポートに繋げている。	採用にあたっては、年齢、性別、資格などの制限は行っていない。似顔絵や歌、手芸など、職員個々の特技や能力が発揮できる場面も多い。法人としての研修も充実しており、資格取得についても支援している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権に配慮したケアを実施できるように、研修を始め日々の業務の中で、指導、教育に努めている。	法人内の研修や新人教育において、毎年人権教育を柱に、身体拘束禁止や高齢者虐待防止、権利擁護などの啓発を行っている。研修参加や伝達を通じて、意識を高め、共有認識を図っている。	

福岡県 グループホーム 牧水の丘Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のグループホーム4事業所の合同研修計画にて研修を実施し、実践に繋げている。他各事業所内での研修や日々の業務の中での実践、指導にて能力を高めるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム4事業所の合同研修や相互訪問や、市主催のグループホーム交流会に積極的に参加し、意見交換、情報交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて、本人の希望、困っている事、不安を伺い、出来る限り希望に沿った安心した環境を整えられるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて、それまでの家族との関係、不安、要望等を出来るだけ詳しく伺い、本人にとって最適なケア、安心できる生活を目指していく事、入居後も随時相談、問い合わせを受け付ける体制である事をお伝えしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況を家族や関係機関から入手、入居後の本人の状況と照合しながら、今、どんなサービスが必要であるかを見極めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とのふれあいを大切に、同じ空気を吸う中で共に笑い悲しみ、感動を共有し、お互いを労いながら、自然に感謝の気持ちを表せる関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との歴史、絆を第一に考えた支援を実施し、詳しく本人の状況をお伝えしながら、本人と家族がより良い関係が築けるように一緒に考えている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れる事のないよう、友人知人の電話や来訪を歓迎しており、その旨をお伝えしている。	家族や知人との関係の継続を大切にしている。本人の思いや希望を家族に伝え、法事やお見舞いなど家族との交流を積極的に支援している。自宅周辺へのドライブや、通い慣れた美術館などへ出かけている。	

福岡県 グループホーム 牧水の丘Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に入居者同士が会話し、楽しんだり、助け合ったりと関わりがもてるような雰囲気作りを心掛け、レクリエーションや共同作業によって連帯感もてるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した入居者の家族からのお便りのやりとりや、訪問にての近況を伺い、時には相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話や関わりを大切に、意向や願いを受け止めて常に本人を尊重した生活を送れるようにしている。ミーティング、定例会にてもニーズの検討を行っている。	定期的にあセスメント情報の見直しが行われており、日々の言葉や行動等、観察事項が詳細に記録され、職員間で共有しながら、本人の希望や思いの理解に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人との会話や御家族からこれまでの生活について情報提供の他に、それまで利用していた介護サービス機関があれば情報提供してもらっている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察や日誌、ミーティングにて現状を把握し、お一人お一人が心身ともに穏やかに自分らしく生活が送れるように、適切なケアを行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族に意見、要望を伺いカンファレンスを行って、介護支援専門員が介護計画を作成している。	本人、家族の意向を踏まえ、ミーティングシートやセンター方式の活用、関係者とのカンファレンスを行い、介護計画を作成している。毎月のモニタリングにより、現状の確認と見直しの必要性について検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録は、日々の様子、心身の状態、ケアの内容等を詳細に記録している。他に細かな気づき等は朝・夕の申し送りに話し合い、ミーティングシートにて職員間での情報の共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘 II

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループホーム4事業所での交流にて、条項交換、共有に努めている。また法人内のデイサービス・訪問介護・介護支援センターがあり連携体制がある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回地域運営推進会議を開催し、家族、市の職員や町内会の方と交流、意見交換をしている。ボランティアの来訪もある。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診、希望者には週1回の訪問歯科の往診を実施している。状態変化や異変時は早急に受診し、随時御家族へ連絡し、受診の経緯、受診結果を報告している。	入居時に、かかりつけ医について確認している。月に2回、協力医の往診があり、また、訪問看護師による看護計画も作成されており、日常の健康管理や症状の変化に適切に対応できるように体制を整えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来て、バイタルチェックを行っている。その際、入居者様の状況を報告相談し、助言や指示を受けている。看護計画をたて、3ヶ月に1回評価を受け、変化があればその都度対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師、看護師に詳しく情報提供している。頻繁にお見舞いに伺いその都度、家族、看護師に情報提供をしてもらい、容態を把握している。病院のソーシャルワーカーとも連絡をとり、入院中の状況、治療方針を聞いたり、退院までの計画を話し合っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアの方針を作成している。重度化した場合や終末期になった場合はかかりつけ医や御家族とも話し合いをし、要望等を伺いながら、本人の状態の把握し、検討を行う。出来る限りの支援が行えるように取り組んでいる。	終末期のケアの方針を作成し、入居時に本人、家族に書面で説明し、意向を確認している。状況の変化に伴い、その都度、家族や意思との話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、研修や訓練を行っている。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、昼夜を問わずに入居者が安全に避難できるようにしている。その際、委託機関による設置しているスプリンクラーや緊急通報装置の点検、操作方法の確認を行っている。緊急時は近隣の方々にも協力を依頼している。	運営推進会議に合わせて、関係者と協力して避難訓練を実施している。周囲の土地の状況から、台風、水害、山火事を想定し、避難場所の確認や備蓄品(非常食、水、電池、懐中電灯など)の確認を行っている。非常灯、消火栓や消火器の使用方法なども、毎回確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人の尊厳を大切にし、親しく信頼が築けた関係であっても人生の先輩としての対応を心掛けている。プライバシーに配慮した対応、優しい笑顔や言葉掛けを大切にしている。	本人の意志を尊重し、さりげない声かけを心がけ、無理強いや過剰な介護とならないよう心掛けている。選択する場面や自己決定できる場面を支援し、個別のリズムや習慣を大切に捉えた関わりを重視している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意見を尊重し、いつでも自己決定、自己判断できるような空気作りに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の流れの中でも、一人ひとりのペースを大切にし、その時々柔軟に対応出来るように努めている。出来るだけ希望に沿えるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容師が来訪し、ヘアカットをしている。日常でも身だしなみの他に、時にはお化粧品やネイル等おしゃれを楽しまれている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	次の日に使う野菜を見ながら日付のシールを貼ったり、可能な人にはおにぎりを握ってもらう事もある。時には、入居者様の希望のメニューを取り入れている。楽しい食事に繋げるように盛り付けにも配慮している。	専任の調理師2名が配置され、即席の調味料は使用せず、昆布や鰹節、いりこなどの天然だしを用いた食事を提供している。季節の落の煮びたしなど、小鉢には野菜も多く、手作りの家庭料理を大切にしている。大きな窓からデッキを通して、木々に覆われた自然を満喫しながら食事を楽しむことが出来る。昆布切りやおにぎりを握るなど、入居者も一緒に準備している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事水分摂取量をチェック表にて把握し、必要に応じて随時対応出来るようにしている。職員間の連絡報告により、個々の状態変化に対して食事形態の変更や水分補給強化への迅速な対応に努めている。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じて、声掛けや介助を行っている。職員全員が口腔ケアの大切さを熟知しており、ケアを実施しており、必要に応じて訪問歯科の医師に相談、助言を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握し、必要に応じてトイレの声掛け、誘導を行っている。	排泄状況や水分量、排泄パターンなどチェックし、トイレ誘導を行っている。個別の状況に応じて、必要な介助や機能維持に向けた取り組みを行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックや排便パターンを把握し、トイレ誘導を行い、便秘予防に努めている。無理のない運動や食事摂取量、食事内容も確認している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきの入浴にしているが、本人の希望や体調等考慮して柔軟な対応をしている。	毎日入浴が可能な体制にして、日時は希望に合わせて自由に入浴を支援している。リフトも設置されており、個別の状況に応じた対応が行なわれている。シャワー浴も含め、希望や状況に柔軟に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り本人の意思や体調、気分に沿った時間に就寝できるようにしている。館内、室内の温度、湿度の調整、日中の適度な運動も心掛けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬している薬の説明書をファイルし職員が薬の効能や副作用について理解し、すぐに確認出来るようにしている。処方が変わった場合はミーティングシートへの記載、朝礼で伝達し、その後の状態等の確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや野菜の日付シール貼り等、出来ることは手伝ってもらっている。以前の趣味であった貼り絵等の制作を皆で行って作品をリビングや玄関に飾っている。		

福岡県 グループホーム 牧水の丘Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお祭りに出掛けたり、日頃から天気の良い日は日光浴やドライブに出かけ、地域との関わりを大切にしている。	希望や季候を鑑み、周辺の散策やウッドデッキでの外気浴等を日常的に行なっている。また、室内での機能訓練も日課である。買い物ツアーの企画や馴染みの場所への外出、家族との連携による個別の外食等が行なわれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は御自分でお金に管理をされている方はおられない。ホームのレクリエーションとして買い物を楽しむ機会を作っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでも電話や手紙のやり取りができるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには明るい日差しが入る大きな開放的な窓があり、日々の天候を感じたりテラスや庭にいつでも出入り出来るようになっている。緑豊かで、四季折々の景色を楽しむことができる。対面式のキッチンになっており、調理中の音や香りを楽しむ事が出来るようになっている。	リビングの大きな窓からは、四季折々の木々や草花が見渡せ、季節の変化を感じることができる。周囲には、民家も少なく、静寂の中、鳥の囀りも聞こえてくる。自由に庭への出入りが出来、散策したり、満開の桜を見ながらテラスでお茶を楽しむこともある。対面キッチンで談笑しながら、調理の様子が伝わり、家庭的な落ち着いた雰囲気を感じることができる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー席等それぞれ御自分の落ち着く場所を決められており、親しい方々で楽しくテレビを観たり談笑されている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や仏壇やカラオケセットがあり、御家族からのプレゼントやメッセージカード、写真が飾られている。	慣れ親しんだ家具に囲まれ、家族からのプレゼントやメッセージカード、写真が飾られている。職員が描いた似顔絵や職員手作りの小物などが飾られている。大きな窓が設けられ、明るく、開放的な個室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自分ができることはして頂きながら、少しでも自立して安全な生活が送れるように生活環境を整えている。(段差のない床、照明の明るさ、手すりの設置)		